

「昔と今の浪岡、そして将来のまちづくりへ」&語り部プロジェクト
令和7年11月8日(土)に実施したトークイベントの概要

テーマ 住みよいまちとは「浪岡の将来図」

参加者 ①青森市地域おこし協力隊 角間 拓矢さん、
②移住コーディネーター(当会事務局長) 近 恵美子
③当会会長 出町 淳司

内 容 お二人にお聞きした事をまとめました。

Q. お二人とも県外出身で、現在は角間さんが青森市に、近さんは浪岡に住まわれていますが、過去に住んだ所と比べて良い点と欠点は？

A. 角間さん…首都圏との遠い距離。良いと感じる時と欠点と感じる時の両面あります。海が近いのが気に入りました。

A. 近さん…自然が身近にあり、食べ物が美味しく、物価が安い事が良いです。欠点は口コミも含め情報が広がりにくい事。

Q. 県内の青森市以外で、行って良かった所はありますか？

A. 角間さん…五戸町と新郷村。あと、地元で雰囲気が似ている碓ヶ関です。

A. 近さん…車力。縄文遺跡があり、空気感が好きです。

Q. 浪岡地区、県内の他市町村と比べた印象は？

A. 角間さん…津軽と東青を結ぶハブ地域のように、良い場所ですが目的地ではなく通過点のイメージもあります。

A. 近さん…空港に近いのがいい。空港利用前後に浪岡地区に寄るようなPR、展開をするのはどうでしょう。飛行機好きな人向けの飲食店があっても良いかも。

Q. 浪岡地区が、今以上に「住みよいまち」になるには？

A. 角間さん…人口減少は止まらないので、将来の想定人数を基にしたまちづくり。特に冬の不便さを無くすハード面の改革。

A. 近さん…観光よりも住む人のための施策をメインにする。

Q. 浪岡地区の将来図について

A. 角間さん…トヨタの町のように、社会実験ができる地域とする。インフラ整備、老朽化対策を他市町村より早める。

A. 近さん…問題がおきてから対応するのではなく、産官学金連携で市に提案していく。住民間や市とのコミュニケーションを高めるため、他市町村の事例や活動を参考にしたワークショップを実施する。